

## 令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	120人	算数	120人	理科	120人
------	----	------	----	------	----	------

第5学年	国語	140人	算数	140人	理科	140人
------	----	------	----	------	----	------

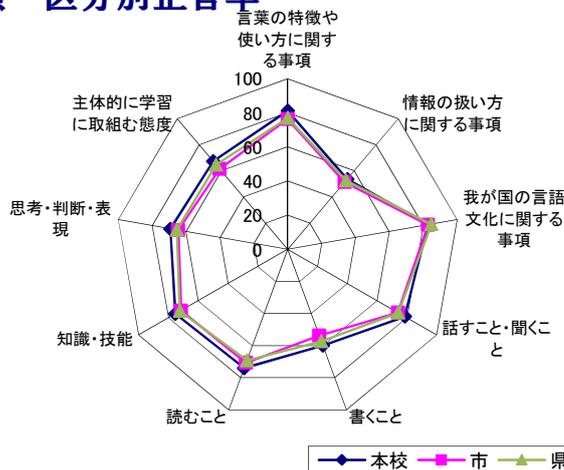
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立横川東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.2	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	53.8	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	82.9	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	78.6	74.1	74.2
	書くこと	59.8	53.7	57.2
観点	読むこと	73.9	70.7	69.2
	知識・技能	75.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	69.2	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	67.4	61.6	64.7



## ★指導の工夫と改善

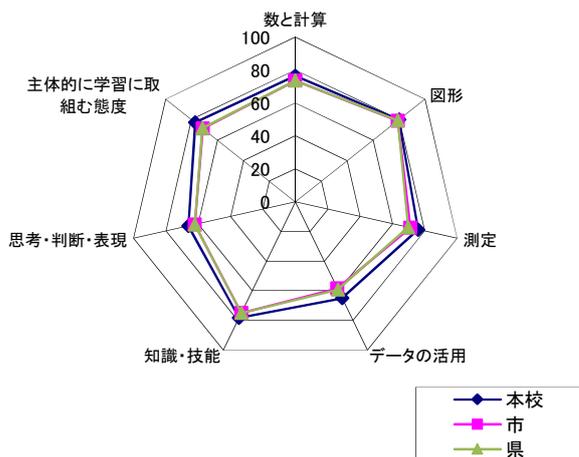
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。</p> <p>○漢字の読み書きは特によくできており、県や市の平均を大きく上回っている。これは漢字オリンピックや漢字50問テストの再テストなど意欲的に挑戦している結果と思われる。</p> <p>●主語と述語の関係やローマ字、語彙、文章の2段落構成などの理解に課題が見られる。</p>	<p>・「文の組み立てと修飾語」の単元を中心に、主語・述語・修飾語について復習し、それぞれの言葉の分類と働きを身に付けさせたい。</p> <p>・「ローマ字の書き方」の単元を中心に、タブレット学習などを生かして、ローマ字の読み書きができるようにしていきたい。</p> <p>・読書活動などを通して語彙を高めながら、それらの言葉を使って作文学習につなげていきたい。</p>
情報の扱い方にに関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○国語辞典の使い方は正答率が70.9%でよく理解している。授業での意味調べなどで国語辞典に親しんでいる結果と思われる。</p> <p>●調べたことを文章にまとめる問題では、市や県の平均はやや上回っているものの、正答率は37.6%と低く、無回答率も18.8%と高かった。</p>	<p>・語彙力を高めるためにも、授業や自主学習等で国語辞典を活用するよう推奨し、国語辞典の使い方を定着させたい。</p> <p>・説明文の内容を読み取る学習において、中心となる語や文を見つけて要約できるようにしていきたい。</p> <p>・苦にせず文章を書くことができる児童が多いので、調べ学習などを活用しながら、情報と情報の関係について理解し、分かったことをまとめられるようにしていきたい。</p>
我が国の言語文化にに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じであるが、県の平均をやや下回っている。</p> <p>○漢字のへんやつくりに関する問題は、正答率82.9%と高く、よく理解していることがうかがえる。これは3年で漢字の部首の学習をし、また4年でも漢字辞典の使い方の学習に意欲的に取り組んだ結果と思われる。</p> <p>●へんやつくりの区別に課題が見られる。</p>	<p>・漢字練習時に部首の確認をしてへんやつくりの意味や種類に注目させるとともに、漢字練習や言語事項の学習の時間などに漢和辞典の活用を進める。</p> <p>・ことわざや故事成語など、日本の言語文化に関する事項について学び、日常生活の中で積極的に使っていくなどして身に付けさせたい。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。</p> <p>○話し手の伝えたいことの本質を捉えたり、相手に伝わるよう、自分の考えを理由を挙げて話す問題は特によくできており、県や市の平均を大きく上回っている。これは質問紙調査にもある通り、授業で発表したり、話し合い活動をしたりと意欲的に取り組んでいる結果と思われる。</p> <p>●話し手の工夫に対する理解に課題が見られる。</p>	<p>・「たしかめながら話を聞こう」の単元で学んだことをいかして、聞き手として、話し方にどんな工夫があるかに気付き、「聞いてほしいな、心に残っている出来事」の単元で実践していきたい。</p> <p>・話し手となった時に、意識して話し方を工夫することで、より相手に伝わりやすくなるよう練習を重ね、グループでの話し合いに自分から進んで参加する児童の育成に努めたい。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同じであるが、市の平均を上回っている。</p> <p>○調べたことを文章にまとめたり、指定された長さで二段落構成の文章を書いたりする問題はよくできており、県や市の平均よりやや高い。</p> <p>●無回答も14.5%ほどおり、その点が課題である。</p>	<p>・「ふるさとの食」を伝えよう」の単元を中心に、調べ学習を通して、理由や事例を挙げて書く活動に力を入れていきたい。</p> <p>・授業での振り返りの時間の確保に努め、日常的に自分の考えを書く時間を設け、書くことへの苦手意識を変えていき、無回答を減らせるようにしていきたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○物語文、説明文とともに叙述を基に場面の様子や段落の内容をとらえる問題は特によくできており、県や市の平均を上回っている。これは国語辞典を使った学習などから、正しく文章の意味を理解している結果と思われる。</p> <p>●説明文において段落の内容をとらえたり、要約したりすることなどの学習に課題が見られる。</p>	<p>・語彙力には個人差があり、言葉の言い換えなどに苦手意識をもつ児童が見られる。そこで、国語辞典を活用したり、読書活動を推奨したりしながら語彙力を高め、表現の幅を広げることで、文章の内容をとらえる力につなげていきたい。</p> <p>・文章の内容を要約する活動を繰り返すことで、中心となる語や文を見付け出せるようにしていきたい。</p>

# 宇都宮市立横川東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.4	73.5	73.6
	図形	79.9	79.0	79.1
	測定	75.9	71.1	69.8
	データの活用	65.0	58.4	59.2
観点	知識・技能	78.3	75.0	75.0
	思考・判断・表現	66.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	77.2	71.4	71.6



## ★指導の工夫と改善

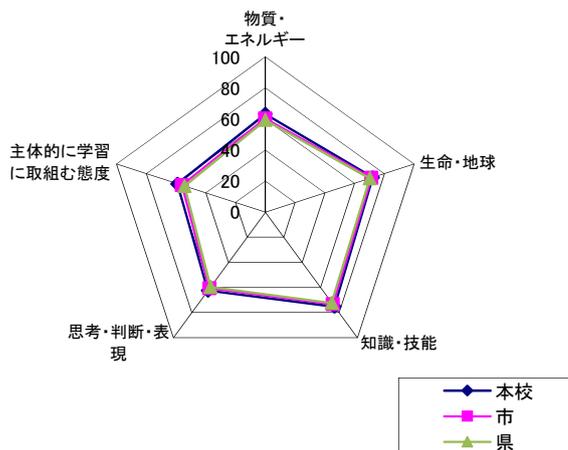
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「かけ算」や「□を使った式」の設問では、市や県の平均正答率を上回っているものが多い。計算方法を正しく理解していることを示している。</p> <p>●かけ算の筆算に出てくる数の意味を問われる設問では、正答よりも誤答が上回る結果となった。</p> <p>●小数の相対的な大きさに関する設問では、市や県の平均正答率を下回る結果となった。</p>	<p>・今後も四則計算の復習を繰り返すとともに、数直線や図などを用いながら式の意味や筆算の仕方を考え、表現する活動を取り入れることで、基礎的な内容の確実な定着を図っていく。</p> <p>・小数の概念においては、改めて授業で表し方等を指導し、日常生活を通して感覚をつかませたり、小数を使った様々な問題に取り組みせたりすることで、理解を深めていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「円と球」に関する設問については、市の平均正答率を上回っていた。特に、球の半径から箱の辺の長さを求める問題に関してよく理解していた。</p> <p>●三角形の作図については、市や県の平均をやや下回っている。</p>	<p>・「円と球」については、繰り返し基本的な練習問題に取り組みさせるだけでなく、個別指導をしたり応用問題に取り組みせたりすることで、更に理解が深まるようにしたい。</p> <p>・視覚的にも理解しやすいように、具体物やデジタル教材を活用し、操作や観察を通して児童の理解を深めていきたい。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均よりもやや高く、県の平均は上回っている。</p> <p>○「時ごとと時間」に関する設問では、市や県の平均正答率を10ポイント以上、大きく上回っている。</p> <p>●「長さ・重さ」に関する設問では、県や市の平均正答率を下回っている。特に、単位が変わると何倍になるかという設問では、市の平均を7ポイント以上下回っている。</p>	<p>・今後も、日常生活の中で時間の換算や数直線、はかり等の読み取りの場を継続的に設定することで、理解を深めさせていきたい。</p> <p>・単位の換算と倍の関係の指導については、図や式を用いて丁寧に行い、確実に定着させた上で繰り返し練習問題に取り組みさせることで、理解を深めていきたい。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○「表と棒グラフ」に関する設問では市や県の平均正答率を上回り、棒グラフを正しく読み取ったり、棒グラフの1メモリの大きさに着目して間違いを選んだりすることが身に付いている。</p> <p>●棒グラフの1メモリの大きさに着目して、間違いのわけを記述する設問については、誤答や無解答が多い結果となり、児童が苦手意識を抱いていることが示されている。</p>	<p>・棒グラフを読み取る問題については、1メモリの大きさに着目することを再度指導し、正しく判断できるよう繰り返し練習したり個別に支援したりすることで理解を深めていきたい。</p> <p>・表やグラフから特徴や傾向を捉える問題にも取り組みせ、どの部分を見て、どのように読み取ったかを根拠を明らかにして、友達に説明できるよう表現力の向上を図っている。</p>

# 宇都宮市立横川東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.1	60.2	59.2
	生命・地球	72.2	71.3	70.3
観点	知識・技能	75.2	73.4	72.3
	思考・判断・表現	62.4	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	59.0	55.9	54.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。</p> <p>○「風やゴムのはたらき」、「じしゃくのせいしつ」全ての設問において、県や市の平均正答率を上回り、特に、実験の結果から、風の強さと車の動く距離の関係を推測することができる設問は94.1%と高い正答率を残す結果となった。</p> <p>●「電気の通り道」の回路を理解し、豆電球の明かりのつき方を推測することができる設問に対しての正答率が県や市の平均を大きく下回っており、基礎的な知識・理解に課題を残したと考えられる。</p>	<p>・「ゴムや風のはたらき」、「じしゃくのせいしつ」など、自分で作り、実際に動かすことで、自らが推測したり、結果を体験し、なぜそうなったか、を考える学習が学力の向上につながったと考える。よって、課題→予想→実験→結果→考察といった学習過程を繰り返し行い、今後とも学力を向上できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>・正答率が低かった「電気の通り道」では、実験の結果が理解に結びつかなかったと考察できる。実験の結果から得たものを正しく考察する力を育てていきたい。理解しやすいように視覚化や焦点化といった指導の工夫を取り入れた授業展開をする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「身近なしぜんのかんさつ」では、記録カードの内容をもとに、差異点や共通点を見い出すことができる設問は市や県の平均とほぼ同じだが、それ以外の設問において、県や市の平均正答率を上回る結果となった。</p> <p>●「こん虫のからだのつくり」に対しての正答率が県や市の平均を下回っており、特にダンゴムシの体の特徴から、こん虫かどうかを判断し、その理由を説明する設問の正答率が55.9%と県や市の平均から12.4と大きく下回っており、基礎的な知識・理解に課題を残したと考えられる。</p>	<p>・用具の使い方や、野外での危険な生物を理解している児童が多く、観察を行う際も安全に気を付けて行うことができると考えられる。これからも進んで観察の授業を行い、実際に見たもの、自分の手で触れたものなどを体験する機会を増やし、児童が実際に体感したことで、理解を広げられるよう取り組んでいきたい。また、理科学習が充実するよう学習環境の整備や実験用具・器具の充実を図り、十分な観察や実験ができるようにし、理科に対する興味関心を育てるような授業への導入や展開を考えたい。</p> <p>・正答率が低かった「こん虫のからだのつくり」では、ダンゴムシの体の特徴から、こん虫かどうかを判断し、その理由を説明する設問が特に低いことから、予想を立てたり、考察を考えたりする過程で自分の考えを文章で書く活動を充実させ、表現力の育成を図る。</p>

## 宇都宮市立横川東小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という項目に肯定的に回答した児童は(90.7%)と9割を超えており、市の平均(83.2%)より7.5ポイント上回っている。また、「勉強は好きですか」という項目を教科別にみても国語・社会・算数・理科・総合的な学習の時間ともに肯定的な回答をした割合は市の平均を上回った。特に、総合的な学習の時間は市の平均より6.9ポイント上回った。本年度から本格的に利用しているタブレット端末の利用は、ICT支援員と協力することで今後も効果的に活用していきたい。以上の結果から、全体的に意欲をもって学習に取り組んでいることがわかる。

○「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答して児童は(62.7%)で、市の平均(47.0%)を15.7%上回った。また、「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と回答した児童も47.5%で、市の平均(42.2%)を上回った。このことから、本校の重点目標である「自分の考えを広げ深めるための交流の場の設定と話型や発表方法の指導」の成果が表れている。一方、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」割合は市の平均を下回っていることから、今後も指導の継続や考えを持つことが苦手な児童への効果的な支援を講じていきたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と回答した児童は(35.6%)と、市の平均(37.0%)を下回った。本校では主体的な学びに向かうために「めあて・振り返り」の実践を掲げているが、十分ではない状況にある。学校全体で共有されている話型を活用すること、振り返りの時間を確保することをができるように努めていきたい。

●土日の家庭学習の時間は、1日当たり1時間より少ない児童が45.8%と半数近くに上る。本校の重点目標に家庭学習の習慣化というものが掲げられているが、土日の家庭学習時間の確保ができていない。地域学校園の共通理解として「家庭学習の手引き」が配布されているため、改めて児童や保護者の方と確認をし、改善に努めたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童は約6割(56.8%)だった。この項目は前年度、課題になった点であり、本年度も大きな改善は見られなかった。今後も課題解決に向け、継続して指導に努めたい。